

第28回つべつふるさとまつり&津別神社例大祭

「第28回つべつふるさとまつり」が、9月9日・10日の両日、五差路から津別神社前の町道で開催されました。好天に恵まれ、職場や各団体による様々な露店、スマートボール射的、金魚すくいなどの縁日が軒を並べる町民手づくりのお祭りを、今年も多くの人を楽しみました。

また、同日開催の「津別神社例大祭」では、神輿や伝統の駒踊りがにぎやかに町内を練り歩きました。



津別神社前の会場は多くの人でにぎわいました



町民手づくりの露店



おまつりならではのメニューも



子どもたちに人気のスマートボール



ジロ一今村さんの大道芸には人だかりが



伝統の駒踊り



勇壮に町内を練り歩く神輿

地方創生の取り組み 24

今までは良かった：そして、これから

国全体が人口減に向っています。特に若い労働力の減少が起きていることを肌で感じます。

首都圏では、福祉や建設などの現場で外国人労働者の姿は珍しくなくなりました。特に大手飲食店では、店員は外国人しかいないところもあります。

特に賃金が安いという事はありません。ではなぜでしょう？

日本人の若い人は、自分のやりたいこと、やりがいのあることにしか、働く魅力を感じないようです。

果たして、地方に魅力的な受け皿があるのか。



▲イベント出店の様子

津別高校生が北大マルシェで特産品販売

HALCC（北大生）の高大連携事業の一つとして、津別高校一年生による町の特産品販売を実施する北大マルシェでの取り組みが、9月16日に行われました。

この取り組みは、大学生のサポートを得ながら、高校生が自ら特産品を選び、生産者にインタビューし、販売の際に使うポップ（商品のアピールコメントなどを記載したパネル）を作成、そして実際に販売体験を通して、接客や来客のニーズなどを研究するものです。

当日は、時折雨が降るなど、恵まれた条件ではありませんでしたが、10時の開店からお客さんが訪れるには、有機農法の玉ねぎやクマヤキサブレなど、高校生がセレクトした商品を買

いにいらっしました。

接客の際には、生産者インタビューで得た商品に関する特徴などを、熱心に説明する高校生の姿や、お客さんをマルシェへ呼び込むための、路上での声掛けなど、高校生が主体的に取り組む、休日の北大マルシェに普段とは違う光景を作り出していました。

この取り組みを通じ、高校生たちが地元の特産品に対して、その商品がどのような思いで作られているかや、完成までの苦労など知ることが、出来たようです。

これらの成果は、今年の12月に中央公民館にて、高校生自らが発表する報告会の開催を予定しています。

産業まつりに北海道大学の学生が出店

10月20日（日）さんさん館前広場で開催される「つべつ産業まつり」にHALCCが出店予定です。

当ページ内にて何度か紹介しておりますHALCCですが、町民との接点が増やせる認知度も上がっていないのではないかと課題解決のもと、町のイベント出店を企画し、関係機関の協

力もあり実現に至りました。

出店内容としては、HALCCと町、及び津別高校との連携事業についての紹介がメインですが、併せて北大関連グッズとして食品や生活雑貨などをブース内で販売する予定です。

また、北大生（大学院生）が来町するという事で、中高生からの進路相談（進路決定体験談、大学ってどんなところ？など）も実施予定です。共にまちづくりへ取り組む仲間として、是非この機会に会場へお越しいただき、皆さまと交流できれば幸いと存じます。

問い合わせ先

住民企画課地方創生係
☎76-2151（内線241）

《津別町空き家バンクの利用状況》

・登録物件数

建 物	貸したい	4 件
	売りたい	12 件
土 地	貸したい	0 件
	売りたい	11 件

・物件を探している登録者数

建 物	借りたい	15 名
	買いたい	15 名
土 地	借りたい	0 名
	買いたい	1 名

登録物件の詳細は下記ホームページをご覧ください。
<https://www.tsubetsu-estate.com/>

【問い合わせ先】

北海道つべつまちづくり株式会社
移住・定住サポートデスク ☎77-6081

e-mail :
tsubetsuousei@gmail.com

【HALCC（ハルク）】
Hokkaido Academic Local Creation Conference の略
平成28年3月に実施した「津別町まちづくりアイデアコンペ」で優秀賞を獲得した北海道大学公共政策大学院の学生が有志で立ち上げた学生団体で、「北海道の学生が北海道の地方創生について考える機会が少ない」という問題意識から誕生しました。
平成28年度から北大生が実際に津別町を訪れ、地域の事業者と交流しながら現地調査を行い、大学で学んでいる知見を活かし、1年に1度、まちづくりのアイデア提案を行って来ています。